

生き生き

NO. 78 平成22年1月号 岡崎市現職研修生活科広報部発行

子どもは発見の天才！（発見・感動・仲間こそが学びの原動力）

生活科部長 荻野嘉美

「校長先生、大変事件です！」

興奮気味に校長室に飛び込んできた2年生の二人。いったい何事かなと聞いてみると、「もう大変なんです。そう、事件なんですよ。」「脱皮です！バッタが脱皮してるんです！」とのこと。その言い方に本当にびっくりしたことが表れている。そんな子どもたちの様子を見ていて、自分も思わず叫んでいた。

「そりゃあ、大事件だ！現場写真を撮りに出動だ！」

早速、2年生の子達が毎日観察をしている、「にこにこ野菜畑」（地域の先生＝子どものおばあちゃんが、学級の野菜畑の先生）に出動してみると他の2年生も集まっている。「先生、こっちこっち！」「ここここ！」「ほらね！すごいでしょ！」「本当だ！バッタが脱皮している！」「わたしもバッタが脱皮するのなんて初めて見た。」等々と口々に話してくれる。

なるほど、シソの枝に止まって、今まさに脱皮の真っ最中のバッタがそこにいる。

「すごいねえ。」「がんばってるねえ。」「脱皮ってぼくたちで言えば服をぬぐってことかな。」「ちょっと違うんじゃない。だって途中で失敗しちゃうこともあるもん。」と子どもたちの会話ははずむ。自分も思わず、「そうだね、脱皮のときは命がけのものね。」と相づちを打った。

「おお、すごい！先生もバッタの脱皮は初めて見た！」「わたしも初めて見てびっくりした。」「すごいもの見られたね！大発見だ！」と会話が弾んだ。

子どもは発見と感動の天才だ！自分たちの野菜畑だからこそ毎日見に行くことを日課にしている。見続けているからこそ、いろいろな発見がある。野菜畑で育つのは、トマトやキュウリなどの野菜だけではない。バッタやテントウムシなどの虫や草たちも育つ。それにもまして、子どもたちの発見と感動が育つ。

もう一つこの事例から学ぶことは、子どもにとって感動を共有することができる仲間の存在である。自分の発見や感動を伝えたい友だちや先生がいてこそ伝えたいという意欲も高まる。実感をこめた学びが広がる。発見・感動・仲間こそが、生活科教育創造の原点である。

生活科部会も実感を込めた学びができるようにと、新学習指導要領実施についての研修と共に「子どもが工夫できるおもちゃ作り」など体験的な楽しい学びを取り入れた。生活科授業道場&岡崎総合的な学習研究会など自主サークルの活動も尊い。仲間の実践のエッセンスを学び合いながら、共に前進していきたい。